

二〇一四年 五月

「今月の言葉」と「今月の聖語」についての紹介

今月の言葉

一切の有情は、みなもつて世々生々の父母兄弟なり。

『歎異抄』

父と母で二人。父と母の両親で四人。そのまた両親で八人。こうして数えていくと十代前で二十四人。二十代前では百万人を超え、さらに三十代前では十億人を超えます。さかのぼればきりがありませんが、この多くの祖先の内誰一人が欠けても、今の私は存在しません。改めて、自分分は、多くのいのちのつながりの中にあることがわかります。

これだけ多くの祖先がいれば、今は他人でも、遠い昔は祖先同士が「父母兄弟」だったということも十分考えられます。むしろ、何の関係もない人を見つける方が難しいといえるでしょう。今月の言葉は親鸞聖人のお言葉で、「いま生きるすべてのものは、過去からのいのちとつながりあって生きる父母兄弟のような存在です」という意味です。

普段、自分の都合によって、親しい人・親しくない人、敵・味方と区分けをしています。実は深いところでのいのちのつながりがあり、関わり合っているのです。そんなまなざしを宗祖親鸞聖人は教えてくださっているように思われます。

※世々生々：長い年月を、生きかわり死にかわりして生をうけること。

今月の聖語

前に生まれん者は後を導き、後に生まれん者は前を訪え

『教行信証』

学校生活やクラブ活動などで、「去年まで後輩扱いされていた私が先輩と呼ばれるようになってた」。新年度を迎えて一カ月がたち、そんな経験をした人はいませんか。

「亀の甲より年の功」。年齢を重ねてこそ得られる経験や知識は、後輩はもっていないもの。先輩は惜しみなく教え、後輩は気兼ねなく聞く。学びの場である学校では、そんな関係が望ましいと言えるでしょう。

とはいえ現実には、先輩が頼りなくて素直に話を聞けなかったり、後輩が生意気ですついつい教えることが億劫になったりすることもあるかもしれません。

今月の聖語で親鸞聖人は、「さきに生まれたものは後に生まれた者を導き、後に生まれたものは先に生まれたものをたずねていきなさい」と、おっしゃっています。先輩は後輩を導き、後輩は先輩をたずねる。ごく当たり前のことかもしれませんが、今一度、大先輩である宗祖のお言葉にたずねていきたいものです。